

平均台

著者・発行者
かぶや亭坊楽

『月刊いい平均』増刊第7号



129

（小冊子『平均台』からの通しナンバー）

母親「学校から帰ったら、このメモを読んで、留守番ちゃんとやってね」

娘「はあい。メモ、今見ちゃおっと…水分をアズキにとること。なにコレ？ お汁粉でも作るの」

母親「どれどこよ、あーこれは『こまめに』なの。ふざけて『小豆に』って書きちゃった」

130

A「テレビが愈々地上デジタルに変わるんだね。準備を早くと盛んに呼び掛けてるな」

B「地デジ、地デジと連呼されると、血で血を洗う凄惨な闘いを想像したりしちゃうよ」

A「俺は、そこまでは思わないが、あまり尻を引っぱたく言い方だから尾籠な話、痔で痔を治す逆療法かなあーんて」

131

先輩「どーだ、筋トレのポイント良く判ったか。習い性として身に付けるんだな」

後輩「確かに。ちゃんと『習慣』にしなきゃと必死ですけど、まだまだとても」

先輩「そうか今日で漸く7日目で、『週間』違いつてとこか」

132

司会者「当会を代表しまして会長より『謝辞』がございます」
会長「えーっ、本日は…（だらだらだら）…又早い話が

：（全然早くない）…処で昨今は…（古ーい事柄）…」
出席者のつぶやき「いい加減にしろ。『シャジ』を投げるぞ」

133

宣伝マン「さあ来月1日から全部入れ替えますよ。シンダイ、シンダイにどうぞ」

通行人「なぬ、寝台？ ホテルのか、列車のか」

宣伝マン「うんにゃ、ちゃうちゃう、こちとらパチンコ屋でやんす。いい新台ばっかりよ」

134

爺さん「生協の若い衆、よく働くのう。それだけの配達量をこなすたあ、大したもんだ」

生協担当者「恐れ入ります。なあに此れしき、あつしの肺活量だったらラクシヨウでっせ」

135

甲「動物愛護週間が始まるんで考えたんだが、普段使ってる言葉の中にや動物に申し訳ないのが一杯あるなあ」

乙「確かに。馬脚だの、猫の額だの、蛇足なんてゾロゾロ浮かぶわな」

甲「まあ、そいつらは昔からのお馴染みと言えば其れまでだ。最近の外来品種は、強烈だ」

乙「例えば何だ？」

甲「ほら、リストラやトラウマ、それにトロイカ」

136

少年A「おい、さつき落としたってばやいてた手帳あったかい？」

少年B「おう、そのベンチで見つけたよ。あつたかいお尋ね有難う」

137

気障な男「最近ファッション雑誌見てると、セレブものが

矢鱈載ってるなあ」

荒くれ男「それがどうした。なんかモデル種に使おうってのかい」

気「うん、繋いでストーリー作って『セレブ劇』にしちゃうかと」

荒「そりゃ止めなよ。お前にや無理だ。俺が指導するから別のにしな」

気「じゃあ任せるが、どんなイメージだ」

荒「馬車が疾走、飛び道具が行き交う、バーボン・ウイスキーをがぶがぶ」

気「なあーんだ、『セイブ劇』じゃんか」

138

選手A「あー痛え、こんなに擦りむいたぜ」

選手B「どーれ相当ひどいな。だが、俺達サッカー部にや擦過傷は付き物だぜ」

139

学生I「あいつ、試験の本番に滅法強いなあ」

学生II「うん、奴は夜ばかり勉強してんだよ。それで、どんな問題だろうと昼間無いのさ」

140

湯上りの爺さん「一つや二つじゃ無いの古傷はーなんて歌があつたな」

婆さん「都はるみだね。風呂で歌ってる上機嫌の声が聞こえてたよ」

〓沈黙と静寂〓

婆さん「なんで急に黙っちゃったのさ。もつと歌ったら」

爺さん「いやあ、わしなんざ数え切れねえ古傷で満身創痍よ。参ったなあ」

婆さん「なあに、そんなに悩む事は無いわよ。私や満身創意工夫の古着ばかりだもん」